



【2018-09-19】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
就職協定廃止のこれから？

長野修二

就職協定廃止のこれから？

新しい経団連会長の中西氏から就職協定の廃止に関する提案がされて波紋を呼んでいるようです。

そもそも就職協定のルールを遵守している企業の多くは経団連傘下の大手企業ですし、中小企業などはもともと自由に採用活動をおこなっています。

もっとも、大手企業でも現在ではインターン制度やリクルーター制度によって事前に学生になんらかのアプローチはしています。

これも我が国固有の本音と建て前を使い分ける方便のひとつでしょうか。

それでも世間的には、就職協定ルールによって学生や中小企業は守られていますよというサインを送っているわけです。

社会の安定という側面からみれば、また経済が順調に成長している時期にはある程度機能していたともいえそうです。

私のようにもともと社会からはみ出している人間にとっては、就職協定があろうと指定校制があろうとなかろうとほとんど関係がありませんでした。

そのような就職活動の体系すら理解していなかったのですから、救いようがない学生だったのです。

それは会社生活の全般をそのように過ごしたことからも社会のルールには無頓着だったというただの馬鹿でしょうか。

それでもなんとかなるものです。

いつの時代でも多くの人間は安定した生活を望みます。

こういう馬鹿な私でも同じです。

それでも時代が変わり社会が変化していくことは致し方ないことです。

それが永遠の真理だからでしょう。

私の息子たちは、就職協定のルールに基づいて就職しましたが、とくに私のような人生を歩くことを勧めていません。

理由は、何度も書いていますが、この国は挑戦者に厳しい国だからです。

国というよりは、人間の考え方でしょうか。

そう考えると就職協定の廃止も悪くありません。

その理由は、学生も大学も、もちろん企業も挑戦的になるからです。

しかし、我が国の場合、見かけの安定を好む傾向がある国民が多くこの先政府や大学、あるいは中小企業から就職協定廃止に関して異論がでることは十分に予想されます。

はたして全面的な廃止になるかどうかわかりませんが、仮に就職協定が廃止されなくとも、企業の採用活動は、これまでよりも柔軟な対応をおこなっていくことになるでしょう。

理由は、人口減少による人材獲得競争が激化するからです。

企業にとってこれまで以上に採用活動は重要な要素になりますが、それぞれの企業がどのように工夫して人材を獲得するかという本来の採用活動になるのは望ましいことです。

学生も親もあまりメディアの情報ばかりに振り回されることなく、自分の目と足で、そして頭を使って就職活動ができるようになることは、少しばかり挑戦的な行動が必要になり、この国の人間の創造性を誘発するという意味では、面白くなりそうです。

また、日本ばかりだけでなく海外で自営業に挑戦するなど幅広く物事を眺めておくことも意味があるのではないのでしょうか。

女性が差別されるのは我が国だけではありませんが、より差別が少なく挑戦できる国はあるものです。

これからは、益々自分の頭で考えて行動できる人のほうが人生を楽しめそうです。